

公共工事における総合評価落札方式の運用方法の改善



防災・メンテナンス基盤研究センター 建設マネジメント技術研究室
 室長 小川 智弘 主任研究官 富澤 成実 研究官 大野 真希 前室長 森田 康夫

(キーワード) 公共工事、入札・契約、総合評価落札方式、技術提案

1. はじめに

国土交通省直轄工事における総合評価落札方式の適用率は、2007年度以降ほぼ100%の状況である。

また国土交通省は、総合評価落札方式の諸課題に対応するために、従来は「簡易型」「標準型（I型、II型）」「高度技術提案型（I型、II型、III型）」の3区分に分かれていた方式を「施工能力評価型（I型、II型）」と「技術提案評価型（S型、A型）」の2区分に再編した「二極化」を打ち出し、2013年度から全国的に運用を開始した。

建設マネジメント技術研究室では、各地方整備局等の総合評価方式の実施状況を年次報告書として取り纏めるとともに、運用上の課題等のフォローアップを実施している。以下に、技術提案評価型S型に着目して実施状況を整理・分析した結果明らかになった課題と運用改善の取り組みについて示す。

2. 技術提案評価型S型で技術評価点1位同点が複数者になるケースが多発する課題

技術提案評価型S型で発注される工事は技術的難易度が高く、中でもWTO技術提案評価型S型の工事は金額の規模も大きくなるため、優れた技術力を持つ企業が競争参加者となる。その結果、競争参加者のハイレベルな技術提案に対する発注者側の評価に差がつきにくくなり、技術評価点が1位同点複数者となるケースが発生している。2014年度においても技術評価点が1位同点となる工事の割合が44.3%と約半数近く存在し、その内4者以上が同点となるケースが14.2%も発生している状況となっている。（図-1）

なお、1位同点となるケースが多い工事を工事種別別（WTO技術提案評価型S型）に見ると、鋼橋上部工、プレストレスト・コンクリート工、一般土木において発生割合が高い状況となっている。（図-2）

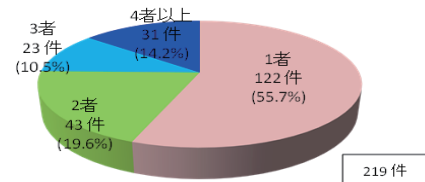


図-1 技術評価点1位同点者の状況

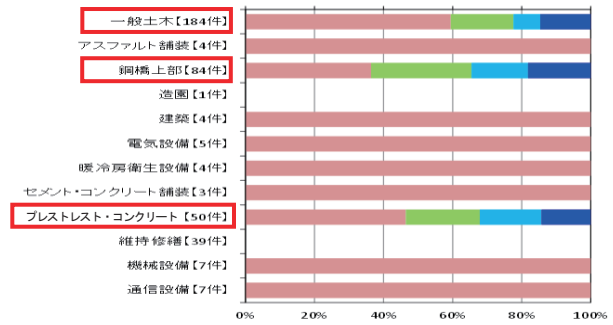


図-2 工事種別別の技術評価点1位同点者の状況

このように、WTO技術提案評価型S型では技術評価点による技術力の差がつきにくい状況が生じている。

3. 技術提案書の評価方法に関する取り組み

2. に示した課題を改善するために、技術提案書の評価は3段階（優/良/可）評価を基本としているが、より細かく評価基準を分類することで評価結果に差を付ける取り組みを行っている地方整備局等もある。

この他にも各地方整備局等で工夫している取り組みがあり、これら取り組みを地方整備局間で共有することが課題の改善に向け有効であると考えられる。

4. 今後の予定

今後も引き続き各地方整備局等の総合評価落札方式の入札・契約状況等をフォローアップし効果の検証を進め、より良い制度となるよう更なる改善に向けて検討を行っていく予定である。

【参考・関連するWEBサイトのURL】

詳細は、下記URLより建設マネジメント技術研究室（総合評価方式の活用・改善等による品質確保に関する懇談会）のHPを参照いただきたい。

http://www.nilim.go.jp/lab/peg/sougou_hinkakukon.html